

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成31年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国籍の者に関すること</li> <li>・ その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に資すること</li> </ul>
調査研究のねらい	<p>ここ数年は、日本人の在籍者数が減り、外国籍生徒が約85%を超えるようになった。また、母語が英語圏でもなく漢字圏でもない国（西アジア）の入学者が増えている。年齢層も若くなり、受検を希望する生徒も増えている。そのため、個々の生徒の状況に応じた学習指導のあり方や、指導の仕方が多岐に渡るようになっている。そこで、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 入学希望者の国籍または年齢層、未就学や既卒によって、どのような教育課程・カリキュラム編成を行うことが適切なのか、また魅力ある夜間学級にしていくための行事や教育機会の提供拡充していくためには、こういった取り組みが必要なのか調査・研究を行う。</li> <li>② 外国籍の者の中の特にアラビア語圏（特に宗教、言語などの文化的背景）など、受け入れ実績の少ない生徒の教育について、日本語指導を含めた学習指導の調査・研究をする。また、外国籍の生徒への教育機会の提供に資する取り組みを調査・研究する。</li> <li>③ 広く夜間中学を地域社会に知って貰うにはどのような手段が適当か、調査、研究を行う。</li> </ol>
調査研究の成果	<p>本年度も多国籍化が進み、渡日後間もない英語圏でない若年層の生徒など、個人への対応をよりきめ細かく指導する必要性が高まった。そのために、まず入学時に個人の目的や目標をはっきりとさせることにした。コースごとにできる限り複数教師を配置し、生徒のニーズに対応できるようにした。</p> <p>また、月に1回情報交換会での生徒の進捗・理解度なども、より細かく報告するようになった。</p> <p>○小・中学校の国語の学習指導要領を基本として、日常的によく使う日本語やすぐに役立つことを目指した教材を増やすようにした。</p>

○理科の学習での教材工夫を行った。薬品を実際を使って、目の前で実験をする方が板書より、理解し易くなった。具体的な体験活動は生徒たちのわかりやすさや意欲につながった。

例：BTB溶液を使い、水溶液の性質を色で識別する（身近な洗剤、野菜や果汁での水溶液の性質を調べてみる）

硝酸カリウム、カリウムみょうばんを使い、水の温度とともに、溶ける量がどうなるか？（多くなる）薬品の種類によって、溶け方が違うと溶けるとき、水溶液の温度がどうなるかを実験した。

○進学を希望する生徒に対しては、特に長期の休みなど補習を入れるなどして、日頃の不足しているところを補うようにした。

○定期的に（月1回）研究委員会を開き、コース間の国語指導状況や進捗を確認し、共有するように努めた。

○夏季休業中には、外国人に向けた日本語の指導法について、外部講師を招いて校内研修を行った。

・教員はどうしても積み重ねた上で次に進もうとするが、今日の1回で「出来た」「わかった」「楽しい」を優先し、次に忘れていても構わないくらいの気持ちを持って進めたほうがよいのではないかと助言をいただいた。

「忘れていても構わない」という言葉は、肩の荷が下りた感じで、教えるほうも気持ち的に楽になった。先に進むことも出来て、生徒さんも「自分は進んでいる」ということで、やる気も違って来るようになった。

・日本語の参考書をたくさん紹介してもらうことで、刺激を受けた。

○この数年、西アジア（スーダン・シリア）からの入学者が増えイスラムについての知識が必要となってきた。そこで、日本人とエジプト人の方を講師に迎え、イスラム全般について研修した。イスラム教の基本的な考え方やラマダン、ヒジャブ、ムスリム等について学ぶことができた。まだまだ継続した研修が必要だと感じた。

○モニターを導入することで、視覚的に訴えることができ、イメージにつながり易くなった。本年度は宿泊校外学習の実施にあたり、方向や場所を決定するにあたり、非常に便利であった。また、授業でもそれぞれの国を映すことで、身近な方がどんなところで生活をし、何が問題だったのかなど、実

感することができた。今後モニター活用の充実に向けてさらに一層取り組み、市内での取り組み発信にもつなげていきたい。

- 音楽鑑賞会を実施。日頃、歌っている日本歌曲（教科書に載っている曲）を中心に、生の歌唱で聴けたことは、いい経験になった。
- 生徒の相互理解と異文化理解を目的として、各国の料理を作って食べる食事会を行うことができた。有意義な交流をすることができた。
- 今年度は、一泊二日の宿泊校外学習を行った。行く先の方面を生徒に選択させるための手段として、また日本の各地を視覚的に知らせるための手段として、モニターを使用することで、行程や活動内容を共有することができた。
- すべての生徒が、一年間の学習の総まとめとして、作文集第41号「希望」を発行することができた。自分の考えを日本語でまとめることは、日本語力をつけることにつながった。
- 今年度は、夜間中学の生徒を募集する看板を作成し、市内の各中学校に掲示をした。